

主 題：教会が教会であるために
 聖書箇所：ペテロの手紙第一 5章1－4節

迫害の中にあるキリスト者に「神を信頼して善を行い続けるように」と励まし続けたペテロは、次に個人から、彼らの集まり、教会へと教えを移して行きます。クリスチャン一人ひとりが正しく歩んで行くなれば世に対して大きな証を為すことになります。そして、その集まりである教会が神の前に正しい秩序を維持するなら、同じように世に対して大きな証を為すことになります。

この5章には九つの命令があります。今日はその一つ目を学んで行きます。

5：1に「そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、…お勧めします。」とあります。

「長老たち」とは教会の霊的リーダーです。このことばは新約聖書に20回使われています。その意味は字のとおり「年長の、老人の、年をとった」で、彼らは教会にあって、神のみこころに沿って教会を導くという最も大切な責任を負った働き人たちです。なぜ長老なのか、それはそのような霊的リーダーになるためには時間が掛かるからです。長年の間、みことばを学び、実践してきた人たちです。そのような人たちに主はみこころを示して行かれます。それは、彼らがそのことを第一に求めて歩み続けて来た人々であり、喜んでそれに従って来た人たちだからです。教会はこの世の会社や学校といった組織とはまったく異なります。神のみこころを求める、それが教会です。多数決によって物事が決まる場所ではないのです。

この長老の職務の歴史は四千年前にさかのぼります。

☆モーセの時代から存在しました。モーセのしゅうとイテロは、「あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人々、不正の利を憎む誠実な人々を見つけ出し、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民の上に立てなければなりません。いつもは彼らがさばくのです。大きい事件はすべてあなたのところに持って来、小さい事件はみな、彼らがさばかなければなりません。あなたの重荷を軽くしなさい。彼らはあなたとともに重荷をになうのです。」と助言しています。

☆初代教会においても長老たちは指導的な立場を持って大切な働きを為していたことを私たちは見ます。ユダヤ人以外の異邦人がイエス・キリストを信じ救いに与ったというニュースを聞いたとき、この異邦人の救いに関して「ユダヤ人と同じように割礼を受けさせなければならぬ」というパリサイ人でキリスト者になった者たちからの指摘に対して、何が神のみこころであるかを考えたのは使徒たちと長老たちでした。使徒の働き15章に書かれているエルサレム会議です。

☆また、預言どおりに飢饉が起こったとき、ユダヤのキリスト者たちへの救援物資をパウロとバルナバは長老たちに託しました。使徒11：30「彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送った。」

このように「長老」には大きな責任があったことを教えています。彼らは、教会の財務、牧会の務め、また教会の人々の信仰と生活を指導するある種の権威をもっていました。ゆえに、ペテロはここで注意すべきことを示して、彼らが正しくその責任を果たすようにと勧めるのです。みことばを見ると、長老とか、群れを見守り守って行く監督という務め、そして、群れを養い育てる牧師とありますが、これらはみな同じ働き人を指しています。確かに「長老」といえば牧師、「教会の霊的リーダーたち」といえば長老・執事だけを指すと考えてしまいがちですが、それは正しいのです。教会には長老と執事という二つの役職が存在します。しかし、このみことばが教えるのはそのような特定の働き人ではなくて、教会の様々な働きの長、責任者、各会のリーダーたち、教会学校の先生たちのように、人々を教え導く働き人が当然含まれます。それは、彼らも託されたグループの人たちである羊たちを監督し、養い育てて行く責任があるからです。また、もっと大きな視野で考えるなら、この責任はクリスチャンすべてに与えられているのです。イエスが私たちクリスチャンに与えられた一番大きな命令は、私たちが出て行って弟子を作ることです。弟子を作るとは、キリストの福音を語り、救われた人をみことばによって成長させて行くことです。この大命令はクリスチャンすべてに与えられているから、私たちはどのように人々を教え導いてゆくのか、よく考えることが必要です。キリスト者たち一人ひとりがしっかり聞かなければならない教えです。ですから、このみことばによってあなた自身の働きを吟味し、みことばが教えてくださることに従って、その働きを為し続けていただきたいと思います。

I. 長老たちへの勧め 1－4節

◆群れを牧しなさい＝「(家畜を) 番をする、見張る」という意味で、「養う、世話をする、導く、保護

する」ということです。この命令を与えたペテロはなお迫害の中にある読者たちを励ますことを忘れていないのです。そのことをこの1節のみことばの中に見ることができます。彼は「**そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。**」(1節)と記しています。ここでペテロは自分のことをこのように表現しています。

1) 「**同じく長老のひとり**」＝ペテロは自分のことをこのように呼んでいます。使徒であり、しかも使徒の中で代表的なメッセンジャーであったにもかかわらず、彼は高圧的に話してはいません。自分のことを「長老」というのです。それは彼が長老の重責、苦しみ、悩みを知っていたから、彼らを思いやって「私はあなたたちの同労者である」と言ったのです。人々への慰めと励ましです。それはペテロが自分の弱さをよく知っていたからです。

2) 「**キリストの苦難の証人**」＝これはキリストの十字架を目撃したという自分に与えられた特権を自慢しているのでしょうか？否です。ペテロは今もこれからもっと大きな迫害を受けるであろう兄弟姉妹たちを何とか励まそうとするのです。それは彼らがイエスの十字架を見上げるようにと勧めることです。私たちキリスト者は苦しさの中、辛さの中でいったい何が私たちを励まし続けるのでしょうか？それはイエスの十字架です。キリストの十字架の苦しみを覚えることが今の状況に耐えて行く力を得、正しく歩み続けようとの励ましを与えてくれるのです。イエスがこんな私のために十字架で自分のいのちを捨ててくださった、そのことを考えるほどに私は何をもってイエスに愛を示そうか、それはイエスに忠実に従って行くことだと考えます。ですから「キリストの苦難の証人」ということばによって、ペテロは読者たちにもう一度十字架を見上げるようにと励ますのです。それはペテロ自身がしていたことです。ペテロはイエスに対して、たとえ他の弟子たちが躓くことがあっても私はあなたを見捨てることはない、あなたのためなら死をも覚悟していますと豪語した人物です。しかし、彼は三度イエスを否定してしまうのです。

マタイ26:69-75「ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」と言った。:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる。」と言った。:74 すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。」

また、ルカ22:61-62には「主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う。」と言われた主のおことばを思い出した。:62 彼は、外に出て、激しく泣いた。」とあります。ペテロはイエスと顔を合わせたのです。どれほど彼自身の弱さや罪深さが示されたことでしょうか。同時にペテロはこんなに罪深い自分の罪が赦されたことを確信しました。だから、ペテロが主に忠実に歩み続けて行ったその歩みの中で、十字架の出来事は彼を奮い立たせる大切な出来事だったのです。ゆえに、ペテロは私はこのキリストの苦難の証人ですと言うのです。

3) 「**やがて現われる栄光にあずかる者**」＝ペテロが私たちを励まし続けることは十字架とともに「希望」です。クリスチャンに与えられた希望に目を向けるとき、大きな励ましが与えられます。主にお会いするとき、神は忠実に生きた者に対してすばらしい祝福を与えてくださるという、この主の約束がペテロ自身を奮い立たせました。同じように読者たちにも苦しみがあってもこの希望を見つめて行きなさいと励ますのです。

このような長老への励ましにあふれたことばで始まるペテロからの勧めですが、この「群れを牧しなさい」との勧めは私たちに三つのことを教えています。

霊的リーダーとして失敗しないための三つの秘訣

1. **(自分の) 務めを知ること**：どのような務めが与えられたのかを知ることです。

2 a 節「**あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。**」、「神の羊」とあります。長老でも執事でも、CS教師でも各会のリーダーでも、そしてだれかを教える一クリスチャンでも、私たちが教えるを為すその対象は「神の羊」であることを覚えなければならないと教えるのです。この羊は誰かの私物ではありません。この所有者は神です。ゆえに神の愛しておられる羊として扱うことが必要だと教えるのです。大切なことをペテロは教えています。「神の羊」を牧するようにと神は命じられたのです。そして、「あなたがたのうちにいる」とはあなたに託されたその群れに属する人々です。世界中のすべての羊を牧することではありません。責任を託されたその神の羊を牧するようにと教えているのです。

「神の羊」を養い、世話をし、導き、保護することが自分に与えられた務めであることをしっかりと認識し、羊が成長してゆくために必要なみことばを教えることです。神の真理をしっかりと語って行くこと、そのために長老はみことばを学ぶことが求められます。

2. 務めを全うする方法を知ること：務めを正しく果たす方法を知ることです。

どのようにして知るのでしょうか？ここに二つの注意事項があります。

(1) 正しい態度が必要＝2 b 節「**強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、**」

無理強いや強要されてする働きではなく、自発的に、自主的に行なうのです。そして、神に従って喜んでするのです。神の羊を牧するというこの働きは、ただ単なる人の意志によるのではなく、神のご意志、導きによるものです。

(2) 正しい動機が必要＝2 c, 3 節で心が大切だと教えています。ペテロは二つのこと、お金と権力をもってそれを教えるゆきです。なぜならこれが落とし穴となるからです。

◎お金のためでない：「**卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい**」

誤った動機：「卑しい利得」、これは「恥ずべき利益（不正な利）を得るために熱心」という意味です。食欲さです。もちろん、働き人が教会から報酬を得ることは正しいことだとみことばは教えていますが、同時に金銭に対する食欲さを警告しています。ギリシャの性格描写の第一人者であるテオフラストスは「卑しさとは、下劣な利益を求める欲望である」と言っています。お金がこの働きの動機になっているなら間違っているのです。そのために召されたのではないからです。

マタイ 10：10「**旅行用の袋も、二枚目の下着も、くつも、杖も持たずに行きなさい。働く者が食べ物を与えられるのは当然だからです。**」。また、1 コリント 9：7－12では金銭に対する食欲さを警告しています。「モーセの律法には、「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけないう。」と書いてあります。

いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。：10 それとも、もっぱら私たちのために、こう言っておられるのでしょうか。むろん、私たちのためにこう書いてあるのです。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは当然だからです。：11 もし私たちが、あなたがたに御霊のものを蒔いたのであれば、あなたがたから物質的なものを刈り取ることは行き過ぎでしょうか。：12 もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私たちはなおさらその権利を用いてよいはずではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。かえって、すべてのことについて耐え忍んでいます。それは、キリストの福音に少しの妨げも与えまいとしてなのです。」

そして、長老の資格としてこのように教えています。1 テモテ 3：8「**執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、**」、テトス 1：7, 11「**監督は神の家の管理者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気ではなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正な利を求めず、**」：11「**彼らの口を封じなければいけません。彼らは、不正な利を得るために、教えるはいけないうことを教え、家々を破壊しています。**」

正しい動機：「心を込めて」、熱心、切望という意味です。「卑しい利得」から完全に解放されている人です。お金のためではなく、羊を愛するゆえに、羊とともにいることが楽しいから、それが喜びであるから、この働きを為してゆくのです。

◎権力のためでない＝3 節「**あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となきなさい。**」

誤った動機：「支配」とは「下に」と「権をとる」の合成語です。「権をとる」とは抑制する、圧制する、押さえつけることで、「主人」ということばからきています。人の上に主となるとか、人の上に立って人を支配するということです。統治権をふるう、支配することです。力をもって支配する、自分の味方を増やして思い通りに教会を支配するのです。マタイ 20：25, 26を見ると「**そこで、イエスは彼ら呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。：26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になきなさい。」**」とイエスは弟子たちに教えています。教会のリーダーは人々を支配するのではなく人々に仕えるのです。「割り当てられている人たち」とは「くじ」を引くということです。古典ギリシャ語において、このことばは政府によって人々に分け与えられる土地を意味しました。人々は「くじ」を引いてどの土地を取るか決定しました。すなわち、この働きは神によって割り当てられる、与えられるものです。すべてのキリスト者は大牧者であるキリストに属します。キリスト者は大牧者の羊です。その羊を大牧者ご自身が各リーダーに託されるのです。ゆえに長老たちは神から託された人々を正しくみこころに従って導く責任があるのです。神の羊であるから、神が託されたから、その人たちを支配したり力で押さえつけたりしてはならないのです。ペテロは権威は神のみことばにあると言います。教会が神から命じられていることは神のみことばに従って行くことです。ここに権威があるのです。すべての人はこの権威に従うのです。だから、神のことばを横において人間の考えで運営しようとするとき教会は間違った方向に行きます。教会は霊的リー

ダーたちが神のみこころを求めてみこころを行なっていく、そういう組織として神は造られたのです。ですから、群れのリーダーとして立てられた者たちは、自分の動機をしっかりと吟味した上で働きを為して行くことです。

正しい動機：「群れの模範となる」、みことばを教えそして実践して行くのです。新約聖書にはパウロの模範に関する教えがたくさんあります。

I コリント 4：16 「ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私にならう者となってください。」

I コリント 11：1 「私がキリストを見なっているように、あなたがたも私を見なってください。」

パウロは決して傲慢からこのように言うのではなく、パウロは自分自身完全でないことをよく知っていました。その上で自分の生き方、歩みを見習うようにと勧めたのです。

ピリピ 3：17 「兄弟たち。私を見なう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。」

ピリピ 4：9 「あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。」

II テサロニケ 3：7-9 「どのように私たちを見なうべきかは、あなたがた自身が知っているのです。あなたがたのところで、私たちは締めりのないことはしなかったし、8 人のパンをただで食べることもしませんでした。かえって、あなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼も夜も労苦しながら働き続けました。9 それは、私たちに権利がなかったからではなく、ただ私たちを見なうようにと、身をもってあなたがたに模範を示すためでした。」

I テモテ 4：12 「年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。」

テトス 2：7-8 「非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて、何も悪いことが言えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。」

ヘブル 13：7 「神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。」

パウロは自分だけでなく、テモテやテトスに対しても模範的な歩みをする必要があると言いました。これは長老、牧師だけのことではありません。すべてのキリスト者はこのような歩みをするのが求められています。私たちのあとについてくる人たちの模範となる生き方をする責任をもっているのです。それは、男性なら長老として教会において主に仕えることを求めるのは正しいことです。キリスト者なら執事として主に仕えることを求めるのは正しいことです。そのような働き人にあなたが変えられて行くことは主が望んでおられることです。「自分は今のままで…」という人は間違っています。主を悲しませていることを覚えるべきです。私たちは成長しなければおかしいのです。だから、キリスト者は救われたその日から「人々の模範としての歩み」が始まるのです。失敗を繰り返しながらも。そして、その人は霊的リーダーとして「教会学校の教師」「いろいろな会のリーダー」「執事」「長老」として用いられて行くのです。

この「模範になりなさい」は現在形です。継続してそのように歩みを続けて行きなさいということです。これは「長い期間」を意味します。成長には時間が掛かるのです。

3. (自分の) 責任を知ること：誰に対して責任があるのでしょうか？

4 節「そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けるのです。」

この責任は主に対して為すのではないかとペテロは言います。

(1) **大牧者**=牧会の働きのすべての責任は大牧者に対してであると教えるのです。だから、人を喜ばせるための働きはしません。また、自分のためにもしません。この働きを与えてくださった主に喜んでいただけるようにするのです。人間的な思いに囚われないことです。「現われるときに」とは「見えるようになるとき、明らかにされるとき、」ということで、I ペテロ 1：20 でもこのことばが使われています。「キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました。」と、これはキリストの受肉のことです。しかし、ここでは、キリストの再臨を教えています。そのときに何があるのでしょうか？

(2) **主からの褒美**=「しばむことのない栄光の冠を受けるのです。」とペテロは競技のことを頭に入れながらこのように言ったのでしょう。勝利者は月桂樹の冠を頭にかぶります。そこでペテロは言います。

「しばむことのない」：この地上でもらう冠はしばんでしまう、枯れてしまうが、神が与えてくださるものはそうではないと言うのです。「しばむことのない」とはアマランスという花の名前です。しばんでも水に入れると生き返るという不死の花です。そこから不滅のシンボルとして用いられるのです。そのことばをペテロはここで使うのです。

「栄光の冠」：天の栄光によってできている冠です。ヘブル 2：9 に「ただ、御使いよりも、しばらくの間、

低くされた方であるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。」とあります。イエスをご自分にふさわしい栄光をお受けになったのです。そして、その栄光を私たちに分け与えてくださるのです。主に喜ばれることを為した者への祝福です。しばむことの無いキリストご自身の栄光を分け与えてくださるのです。Ⅰペテロ 1：4に「また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。」と、キリストからの特別な褒美なのです。

いのちの冠：ヤコブ 1：12「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」

義の栄冠：Ⅱテモテ 4：8「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

誇りの冠：Ⅰテサロニケ 2：19「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。」

朽ちない冠：Ⅰコリント 9：25「また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。」

シカゴ・ムーディー教会の元牧師、ウォーレン・ウァーズビーは「こんなに大勢の人たちを喜ばせ続けるのは大変でしょう？」と問われたことに「私は主を喜ばせようとしています。そして後のことは主にお任せしています」と答えたと言います。

私たちがすることは主を喜ばせることです。主が与えてくださった務めに対して、神の助けをいただきながら、その務めを忠実に為して行こうとするのです。そのとき私たちは主から大きな祝福をいただくこととなります。